

---

## 兵庫県伊丹市大字 東桑津の小字地名

---

### ■東桑津の概要

豊島郡桑津郷は扶桑と入江との地形により桑津と称す。(参照：西桑津の小字地名)

戸数は少なかったが、田地が多く(字池田川筋を除き、ほとんどが田地である)比較的豊かな村であった。林氏(約20町歩)、武内氏(伊丹酒造家)、遍照寺が、その大半を所有していた。村の集落は「字垣内」地内にある。(遍照寺は現在、鈴原町にある)また集落より東北に少し離れたところ、「字天役」地内に火蘭降社(蘭降神社)(ホスセリジンジャ)があり、「ランコウ神社の森」と呼ばれる立派な森があり、その中には大人3〜4人が手を回さねばならないほどの楠の大木があった。(この木は、解村時、処分に困ったほどである。)

この神社は、現在、全く別の場所(西桑津字流作地内)に、西桑津の神社「火明神社」と合祀され、桑津神社となり、さらにその後、中村の神社も合祀され現在に至っている。

注目すべきは「大塚」と呼ばれる「塚」の存在である。「字東大塚」および「字西大塚」の地名の由来となっていると思われるもので、「字西大塚」地内の東寄りに「大塚山」と呼ばれる塚があった。この時期(明治初年)で15トの表示があるが、1畝以上の広さがあったといわれている。また、昔から「一本松」とも呼ばれている松があったらしいが、解村時(昭和16年)には、太い雑木があった。

なお、この塚は「火蘭降神社にまつられている身分の高い人の塚である。」(※田中文書参照)といわれているところから、皇塚(コウヅカあるいはノウヅカ)ともよばれている。さらにこの地の少し南にある「西桑津字后塚(ゴヅカ)」地内にある「小塚」との対比で「大塚」とも呼ばれていた。以上に述べた「大塚」が後述する神津小学校の前身となる「大塚小学校」の名の由来であった。

墓地は池田川筋地内にあり、西桑津との共同墓地である。入り口には立派な「迎え地蔵」および「六地蔵」があった。しかし解村後は大部分の人が、墓地をも、ここから移転した。村からは、大手私鉄宝塚線の電車の通行やそれと並行して通っている国道(現国道176号線)を行進する軍隊も見えることができた。

### ■飛行場と東桑津

昭和12年に小坂田および中村地区の開発誘致により、阪神飛行場が造られたが、この時に「字溝入」の一部が飛行場用地になり、昭和16年の拡張には、特に軍部の強制があった。「昭和16年4月に16年中に全て撤去せよ！」の命令を受けた。当時、この件の世話役をしていた川西のアサノサンキチ県会議員を通じて「東桑津はおおよそ20戸の小さな村なので、村ぐるみ住める所を世話してほしい。」と、要望したところ「そんな所は無いので満州へ行け！」と言われ、それを聞いた村の人は驚き、ビックリして、「解村」を決意せざるを得なくなったのです。

当時の区長(田中源三郎の父)の宅地の保証価格は11円で、農地は一反8円であった。さらに、昭和39年第二次拡張により、残っていた村域の大部分が飛行場になり、東桑津の本村部分が消え、飛び地であった「字池田川筋」が残り「西桑津の西に東桑津

が存在する」という奇妙な形となり、現在に至っている。

## 東桑津の小字

### 1. 蛇免（蛇目）（ジャメン）

此の地は、大阪府との境界で「ジャメの池」と呼ばれる用水池がある。ただし、この池の水は東桑津地内には流れていない。

### 2. 上三田町（カミサンダチョウ）

呼び方が省略され、ウエダまたはウエンダイといった。此の地は大変高く、水利に苦労した所で水（中村井からの用水）を引き入れるのに二段階の水ガキ（水車）を利用しなければならない所から、「二丁ガキ」とも呼ばれた。

### 3. 下三田町（シモサンダチョウ）

この地も高く、「一丁ガキ」と言われている。前記の上三田町には、先ずここに入り、もう一度上げる。即ち「二丁ガキ」になる。

### 4. 東大塚（ヒガシオオツカ）

前述の大塚の東にあるところからつけられたものであろう。

### 5. 西大塚（ニシオオツカ）

前述の大塚を地内に有する。

### 6. 天役（テンヤク）

前述の關降神社を地内に有する所から、宗教的な由来を想像するが、不明である。此の地には、地目「田」が大部分の東桑津（畑があるのは、他に宇池田川筋に少しあるのみ）の中で、13筆、合計約18畝の「畑」の部分に注目したい。なぜなら、集落のすぐ東にあたり、長方形の形をしており、地質も「石がない、きれいな土ばかりであった。」

### 7. 屋根田（家根田）（ヤネダ）

### 8. 七々板（ナナイタ）

北から南に長いところであるが、ほとんど高低差がなく、名のとおり、一枚板のようになっており、水もきれいに入る所である。

### 9. 横枕（ヨコマクラ）

西桑津にも同地名がある。

### 10. 町田（マチダ）

「マッタ」と訛って呼ばれている。

「田と田の間の路」・・・もとは田の中の一区域の称で、間路（マジ）。

類似地名：岩屋字町田・御願塚字七町田

### 11. 溝入（ミゾイリ）

東桑津村域の最も北の位置にあり、（しかも、一段飛び出ている。）中村井からの水を、一番先に取水するところから、この名が付けられたのではないか。

### 12. 口戸（クチド）

小坂田に同様の地名「朽戸（クチド）」がある。「クット」と訛って呼ばれている。

### 13. 大田（オオタ）

集落と北に隣接し、名のとおり、大きいところである。また横長の形の多い東桑津にあって、珍しく縦長の形である。

### 14. 垣内（カキウチ）

文字通り、集落があるところから、こう呼ばれたものであろう。この地の大部分は宅地であり、反対にここ以外には家（宅地）はなかった。地内には遍照寺を有する。

西に西桑津の中心「字屋敷」あり。

### 15. 池田川筋（イケダガワスジ）

前述したように、墓地を有するが、ほとんどが流作地であるところから「池のようになる田」であり、「猪名川の筋」であるところから、この名がついたのではないか。同様の地名は寺本地区の最北部の字池田と昆陽地区の飛び地の字沢田がある。いずれも、慶長以前に存在したといわれる「昆陽下池」にあたる場所にあり、その後も、玉田川（現在は改修されて天神川になっている）のすぐそばにある。このように推測したが、猪名川は別名「池田川」というので、その池田川の川筋ということか。

（文責：足立 繁）